

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月3日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600149
法人名	医療法人 五舎会
事業所名	グループホーム はまなす
所在地	鹿児島県阿久根市脇本9093番地2 (電話) 0996-75-0320
自己評価作成日	平成 22 年 5 月 25 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kaken-shakyo.jp/kohyo">http://kaken-shakyo.jp/kohyo</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成 22 年 6 月 25 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体医療機関の敷地内に設置されている利点を活かし、医療面での24時間早期のバックアップ体制が整備されています。利用者及び家族の一人ひとりの思いや希望を大切にしながら、安心と尊厳のある生活が送れるよう支援しています。ホームの畑で収穫した季節の野菜や、散策で取れた山菜などを食材に楽しみのある食事作りを心がけ、毎日の暮らしの中で、個々有用感を感じられるような機会を提供しています。家族や地域の方、又他の事業所の職員の方達が気軽に訪問して頂き、利用者と一緒に触れ合えるようなホームの運営を心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の生活歴や特質を引き出し、個性を生かすように細やかな支援計画をたてて、チームで個々人の生活を支援している。
- ・利用料を含め、利用者や家族等の立場に立った運営方針を取っている。
- ・ケアに対する要求水準を高く持ち、管理者や職員は研修を重ね、サービスの向上に邁進している。
- ・職員の離職が無く、利用者との信頼関係は深い。家族等から安心して任せてもらっている。
- ・災害対策や24時間健康管理体制・地域の協力体制等が充実している。
- ・職員は夜間勤務時間も安心して働ける環境整備が整っている。
- ・利用者の生活状況を支援担当職員がまとめて、家族に毎月報告して、情報を共有しながら、利用者を支えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である尊厳、安心、自立を柱としてふれあいを大切にしながら、安心して暮らせる環境を提供している。	グループホームの意義と役割、地域で暮らし続けるための理念を作成し、ミーティング時に共有に努め、日々のケアに活かしている。また現状に即した理念の見直しをする準備をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的とはいえないまでも、地域の行事に参加したり見学して交流の機会が出来るように努めている。	地区行事の造形展・夏祭り・公民館行事に参加したり、小学校運動会・保育園児との交流・中高生の職場実習受け入れをしている。また、地区住民や他ホーム職員のボランティア訪問、近隣生産者店での買い物など、地域住民との交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	実習生の受け入れ等で事業所として役立ちたいと考えている。雑巾を作り保育園に寄贈し、保育園児との交流を図れたらと考えている。老人会や婦人会との交流も図って行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、利用者状況や日常的な取り組み等報告し意見交換している。家族、行政、地域の方達から出された意見をケアに活かせるようにしている。	会議は地域代表や利用者家族・職員が多数参加して、年6回の計画で開催している。ホームの報告をしたり、声かけ時の注意など貴重な意見が出され、運営に反映し、サービスの質向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議には毎回出席してもらい、率直なご意見や他のホームの取り組み等の情報も得ながら業務の参考にしており、協力を頂いている。	市の担当者にホーム便りを通して利用者の暮らしぶりやホームの運営状況を報告し、利用者の支援について相談している。推進会議に毎回参加し助言等してもらい、共に質向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠は夜間のみとし、一人ひとりが自由に暮らせるよう配慮している。禁止の対象になる行為等、勉強会で再確認し身体拘束しないケアの実践が図れる様にしている。	法人で行われる毎月の身体拘束廃止委員会に参加したり、申し送り時や勉強会で、振り返りをしながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体面だけではなく、言葉や態度などケアの全てが虐待にならないよう常に申し送りや、勉強会で自身の振り返りをしている。併設病院の医療安全身体拘束廃止委員会に月1回参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度への理解は勉強会等でしているが、今後は病院のケースワーカーや社会福祉協議会の担当者を講師に招き知識の習得の機会を設けていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居申し込み時から入居決定時、重要事項の説明書、運営規定などきちんと説明し納得していただいた上で契約している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の思いや、希望、意見不平不満など何でも気軽に話せるような雰囲気を作っている。苦情相談受付箱を設置しているが家族や面会に来られた方達にご意見を頂き、運営に反映できるようにしている。</p>	<p>利用者毎の個別報告を毎月送付し、また、アンケートを行ったり、家族の来訪時に要望や意見を聞いている。運営推進会議は家族が参加しやすい日を選んで開催し、家族の意見・要望を運営に反映するようにしている。苦情相談受付箱も設置している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>勉強会や個別面談等、気軽に意見や提案が出し合える雰囲気を皆で作り、月2回の勉強会や申し送り、連絡帳の活用で意見を反映させている。</p>	<p>職員間の連絡帳や気付きノートに職員の意見や要望を記録し、運営に反映している。研修会参加や資格取得についても職員の意見を聞いて反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>介護手当での申請など給与に反映してもらっており、資格手当や、ハード面でもサポートして頂いており、職場環境は整備されている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修には全職員が交代で参加している。月、4回の院内研修をはじめとして、月2回の勉強会や研修会等への参加をし知識の習得や、介護技術のスキルアップに繋げている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区、グループホーム協会に加盟し研修や交流の機会を持ち、他事業所との相互訪問、意見交換を行いながら、サービス内容の見直しや業務改善の参考にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があったら、個別に傾聴する時間を設け、本人の不安感を受け止めホームや職員に対して安心感を得られるような言葉掛け、配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や不安な事希望など時間をかけて傾聴し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時、必要としている支援を見極めながら他の施設や、サービス（デイサービス訪問介護等）の内容も説明、提案して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人と言う関係ではなく、一緒に生活している仲間と言う意識で関わっている。生活、文化、知恵など学ばせて頂く場面も多く、支え合う関係は築けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支えていくという姿勢は開所当初より続いており、利用者の日々の出来事や、気づき、本人の思いなど情報を共有して良い関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた美容院に出かけたり、墓参りや法事への出席、ホームでの誕生会への友人知人の参加など、交流が図れるように配慮している。	利用者のホームでの誕生会などに馴染みの方を招待したり、希望に応じて自宅訪問・理美容院・墓参・病院の受診者との交流・法事出席など、身内や友人との交流支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でそれぞれの居室を訪問したり、レク活動やお茶、食事の時間等、お互いの座る場所の確保や譲り合いをしながら交流を深め支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入所していた方が併設病院に入院されたが、家族が面会に来られた時に立ち寄りたり、現在の状態を話されたりして相談や、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望や意向を聞きながらその思いを受け止め、希望に添った暮らしが出来るよう支援している。	利用者の日々のかかわり時の表情や言動から察知したことを気づきノートに記録して職員で共有している。家族等からの情報も得ている。自己決定ができるような言葉かけをしている。利用者の思いや意向に応えられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中や、面会時の家族の話の中で、本人の言葉から得られる情報を職員で共有したり、ケース記録に記録して把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム行動言動など具体的にケース記録に記入し、気づきノートや連絡帳を活用し申し送りで見守りや状態把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の勉強会や3ヶ月1回のモニタリング、受診時に状態把握をしっかりと行い、本人や家族の希望、主治医の意見、職員の意見を元にしながら、現状に即した計画を作成している。	本人・家族の要望をもとに職員でアセスメントやモニタリングを定期的に行い、本人本位の介護計画を作成している。個々の意欲を大切にしながらプランが組み込まれて、継続支援をしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのケース記録や、気づきノート、生活日誌申し送り帳、食事、排泄チェック表に日々の状況を具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診付き添いや外出、外泊時の準備、食事の配慮、面会時間の配慮など出来る限り本人家族の要望に応じた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生産者直売のお店での買い物や山菜取り、自宅庭の花畑見学など、地域の方達の協力の下で暮らしを楽しめるような支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療においては併設病院による24時間早期のバックアップ体制が整い、医療機関の選択は本人家族の希望を尊重している。受診時は職員が付き添い、タイムリーに家族に報告している。	本人・家族等の希望するかかりつけ医の受診の継続と協力医療機関との24時間の健康管理体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護職員との間で24時間バックアップ体制が整い月1回の医療安全委員会にも参加して情報を得たり、気がかりな事を相談し助言を貰いながら、異常の早期発見と悪化防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援状況や支援方法など医療機関に情報提供している。又家族とも連携をとりながら回復状態を把握して受け入れ態勢を整え、主治医や、看護師とも連絡しながら早期退院に向けて支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院治療を必要とする段階に至った時には医療機関へ転移となることは、入居申し込み時に説明、その段階に対する詳細な状態等も推進会議等で文書で説明している。協力医療機関と連携をとりながら支援している。	重度化や終末期についてホームが支援できる指針を作成している。家族等や主治医・看護師と話し合いを行い、職員も方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者との急変や事故発生時に備え、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については定期的に応急処置の仕方、初期対応の訓練等勉強会で行っており、消防署の職員による救急救命法の講習を計画している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設病院の災害防止対策委員会に月1回出席し、地域推進会議等でも地域の方の協力を得ながら避難訓練を行い、毎月夜間想定火災避難訓練をしている。</p>	<p>年2回利用者と共に避難訓練をしている。毎月夜間想定した火災避難訓練を法人と共に行っている。通報システムやスプリンクラー、災害用備品、地域の協力体制も整っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人として尊厳する事は運営理念に掲げ全職員で意識している。勉強会での職員の振り返りを行い、尊厳を守るケアとはと自己覚知に努めている。	職員の意識向上を図るため、尊厳に対するケアのあり方を勉強会の課題にしている。利用者のプライバシーを尊ねないように声かけや対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外気浴や気分転換のドライブ、買い物支援等、活動等の希望や昼寝などを、一人ひとりの希望や思いを気軽に表出できるような、配慮声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週単位、一日の流れは設けているが強制する事は無く、一人ひとりのペースで生活されている。どう過ごしたいか希望を聴いて添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	行きつけの美容院に家族と出かけたり、訪問美容を利用しており、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の食材を一緒に下ごしらえしたり、配膳、片付け等が出来る人には手伝ってもらっている。ツワ剥き、皮剥き等意欲的に手伝われており、食事が楽しめるように配慮している。	利用者の嗜好のメニューを取り入れたり、特別食も配慮している。下ごしらえや盛り付け・朝食作り・テーブル拭きなど、役割をもって、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食思に応じた配膳がなされており、食事摂取量のチェックや、咀嚼や嚥下状態に応じた調理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは確実にいき、声掛けする人介助で行う人、それぞれ本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や本人の仕草、表情観察でトイレ誘導を行い、失禁や放尿を防止している。見守りや介助のもと、全員トイレで排泄されている。	排泄チェック表により、パターンをしっかり把握している。職員の気づきやトイレ誘導により、排泄の自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維質の多い食材や牛乳、野菜を多く取り入れ、水分補給にも心がけている。排便チェック表を記入し毎日確認、散歩や、運動で自然排便できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の気持ちを尊重しタイミングにあわせて入浴して貰っている。曜日は週3回に決めているが、個々の希望に応じて柔軟に対応していきたい。	入浴日は決められているが、一人ひとりの希望や体調に合わせて支援している。入浴をいやがる利用者には声かけや職員の交替など工夫をしながら入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を等して生活のリズムを整え、メリハリをつける支援をしている。昼間の休息もその人のペースで自由に気持ちよく取れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の振り返り時、服薬状況を確認している。薬の変更があった場合は、連絡帳に記載し、申し送り、職員全員が周知するようにしている。処方箋をファイルし、内容を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや楽しみのある日々が過ごせるよう、個々の希望や意向を聴いてその日の関わりに繋げている。ドライブや買い物支援等随時行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その人の希望に添って散歩や、山菜取り、買い物、ドライブ、畑仕事に出かけている。外気浴等は日常的に行っているが今後は、行きたいところへの支援が定期的に行えるよう、家族との連携を深めていきたい。	散歩や買い物・山菜取り・地域の行事参加・花見・外食・自宅訪問・墓参りなど、家族の協力をもらいながら、外出の機会作りを工夫して閉じこもらない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの力を見極め、買い物支援時自分でお金を支払う機会を作っている。金銭出納長に記録し、家族には随時確認して貰っている。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>日常的に電話は取り次いでおり今後、手紙等を家族に出す手助けを支援していきたいと考えている。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テーブルには季節の草花を生けたり、居間や食堂に行事等の思い出の写真を飾ってある。玄関にはベンチを置き外気浴をしたり居心地よく過ごせるような工夫がしてあり、カーテンやよしずの利用で快適に過ごせるよう工夫している。</p>	<p>ホールは明るく、温度や湿度・換気等に配慮がなされ、清潔である。ホールに写真や行事の飾りつけや花が生けてあり、温かく家庭的で居心地の良い共用空間である。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間のソファで会話したりテレビを見たり一人ひとり思い思いに過ごせるようそれぞれの座る場所が暗黙のうちに決まっている。気の合う人と安楽に過ごせる配慮をしている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの荷物の持込など制限はない事話している。タンス、衣装ケースを置いたり、お位牌、思い出の写真、時計や、カレンダー等で居心地よく過ごせるよう工夫している。	位牌・タンス・時計・衣装ケース・家族写真など、それぞれ馴染みの物や好みの物が持ち込まれている。また、利用者の顔写真を居室入口に飾り、安心して居心地良く過ごせるよう配慮が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下に手摺りがつけてあり、車椅子が自由に動けるようバリアフリーになっている。居室の入り口には顔写真を張っており、トラブルを未然に防いでいる。散歩に自由に出かけ自立した生活を送れるよう配慮してある。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない